

教育の地域間格差

生きる力を育むために

発表者 杉本 田島 坪内

教育の目的は何か?

○教育基本法 第1条(教育の目的)

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

○新学習指導要領リーフレット

「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、 それぞれに思い描く幸せを実現してほしい」

= 生きる力を育むことを目標にしている

出典

文部科学省「教育基本法」

(https://www.mext.go.jp/b menu/kihon/about/mext 00003.html アクセス日2020年8月24日)、

および、

文部科学省「新学習指導要領リーフレット」

(https://www.mext.go.jp/component/a menu/education/micro d etail/ icsFiles/afieldfile/2019/02/14/1413516 001 1.pdf アクセス 日2020年8月24日)より作成

生きる力とは

「自らが学び、課題を見つけ、問題を解決していく力」

自らを律しつつ、 他人とともに協調し、 他人を思いやる心や感動する心

学力 生きる力 豊かな 体力 人間性

基礎・基本を確実に身に付け、 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、 主体的に判断し、行動し、 よりよく問題を解決する資質や能力

> たくましく生きるための 健康や体力

文部科学省「現行学習指導要領 生きる力」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/pamphlet/ アクセス日2020年8月20日)

教育格差とは

生まれ育った環境により、生きる力に格差が生じること

- ・親の収入
- •家庭内教育
- •家族構成

- ・学校外教育の支出
- •生活習慣、学習習慣
 - ・祖父母の支援

受けられる教育の機会に格差が生じる

生きる力の格差

教育格差がなくなることで、日本全体の人的資本は増え、経済成長が促される

リサーチクエスチョン

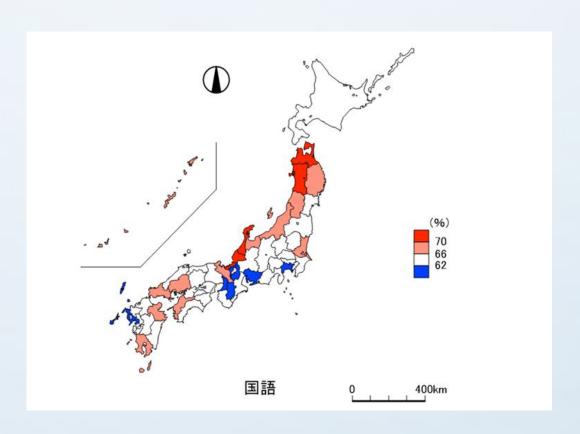
各都道府県の生きる力(学力、体力、豊かな人間性)は、どこに格差があるのか、そしてその原因と解決策はなにか

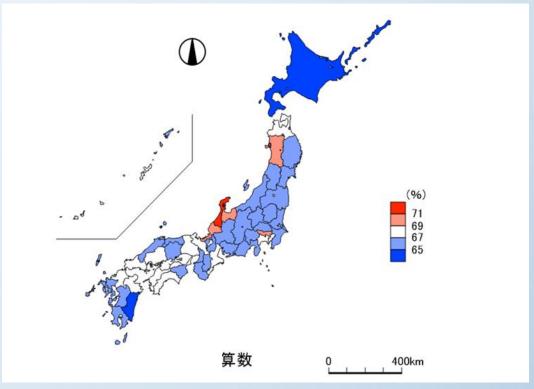


学力



学力でみる地域間の教育格差① 平成31年度小6の国語と算数の正答率





出典 国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」より作成 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)

1人当たり県民所得と小6学力の相関係数平成19年度~平成28年度

	国語	算数
H19	0.209164	0.214522
H20	0.155265	0.246263
H21	0.170342	0.207761
H22	0.029085	0.188794
H23	学力テスト	データなし
H24	0.168595	0.243167
H25	0.038677	0.09018
H26	0.019803	0.082743
H27	-0.02011	0.141381
H28	0.028597	0.087926

出典

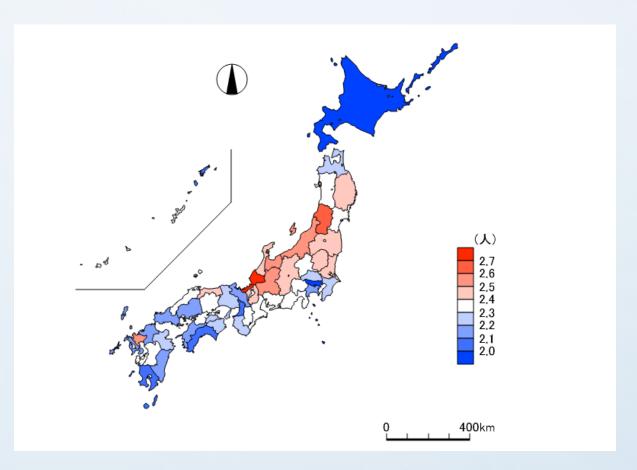
国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)、

および、

内閣府「県民経済計算」統計表

(https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kenmin/file s/contents/main_h28.html アクセス日2020年7月28日)より作成

平成30年度 家族構成と小6学力の相関係数



相関係数

国語A	国語B	算数A	算数B
0.194054	0.180437	-0.02565	0.066171

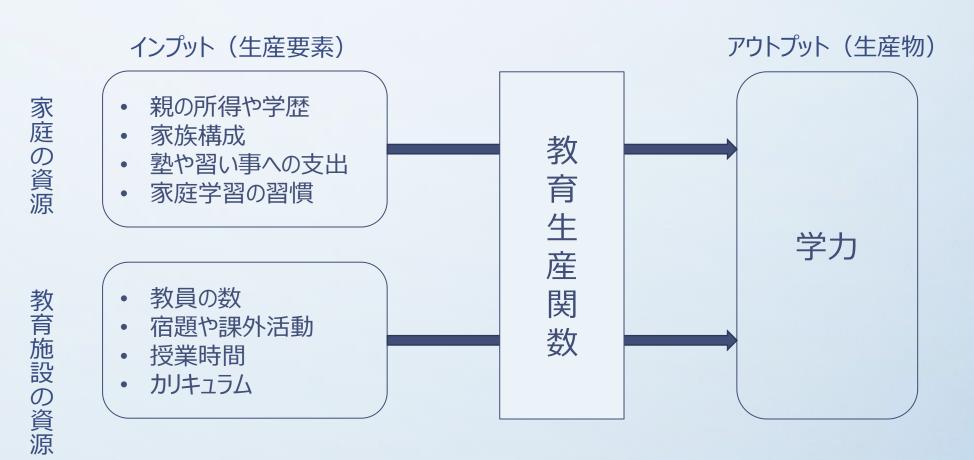
出典

厚生労働省「統計情報・白書 厚生統計要覧(令和元年度)」第1編人口世帯 第3章世帯 第1-65表 世帯当たり平均構成人員(日本人)年次×都道府県 (https://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/indexyk_1_3.html アクセス日2020年7月28年)、および、

国立政策研究所「全国学力·学習状況調査」

(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)より作成

教育生産関数



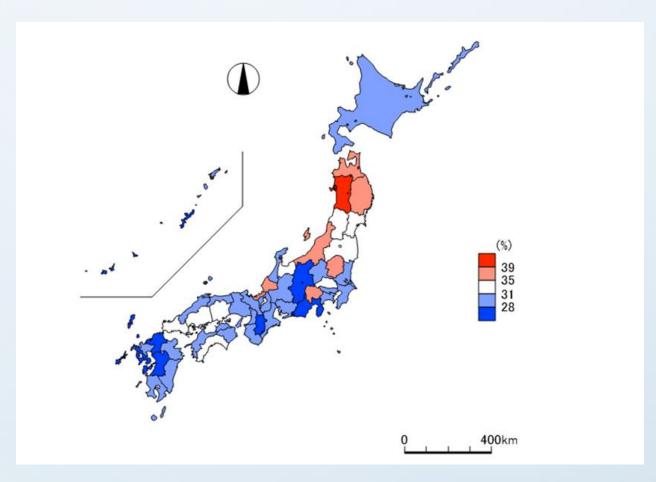
出典 中室牧子『「学力」の経済格差』(ディスカバー・トゥウエンティワン、2015) p 33



豊かな人間性



平成31年度思考習慣と小6学力の相関係数



「学級の友達との間で話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり,広げたりすることがで きていると思いますか」の質問に「当てはまる」 と答えた小学6年児童の割合

相関係数

国語	算数
0.494114	0.213162

出典 国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」より作成 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)

学習状況調査他の項目と小6学力

⇒1つ前のスライドの質問の他にも正の相関がみられるものがあった (自分には良いところがあると思うか、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦しているか、など)

非認知能力

非認知能力…IQや学力テストで計測される認知能力とは違い、人間の気質や 性格的特徴のようなもの (例)自制心、忍耐力、社会的適性、など

出典 中室牧子『「学力」の経済格差』、ディスカバー・トゥエンティワン、2015、p86

ペリー就学前プロジェクト

- ・ 低所得のアフリカ系米国人3~4歳の子ども58人が対象
- 期間は30週間
- ・ 午前中に毎日2時間半ずつ教室で授業
- ・ 各家庭、週に一度、90分の家庭訪問
- ・終了後、プロジェクトを受けた58人と受けていない65人の子を40歳まで追跡

ペリー就学前プロジェクトの結果から

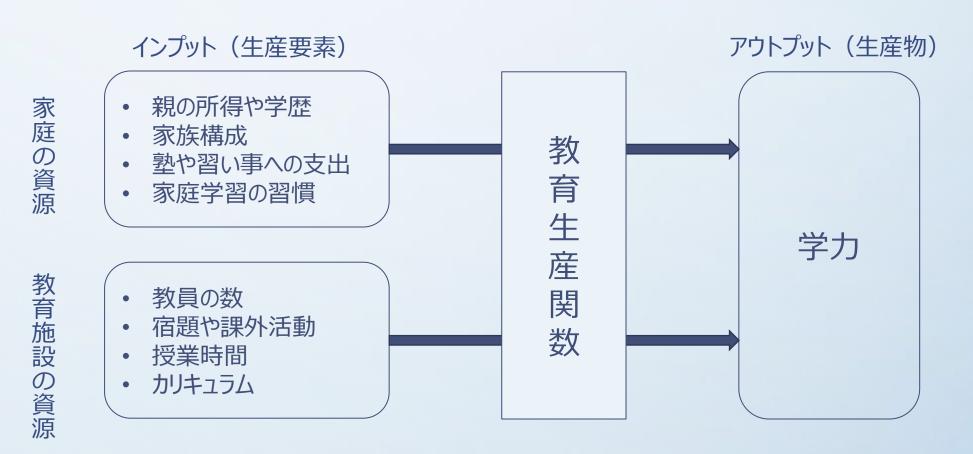
6歳時点でのIQの差は大きいが、8歳前後でIQの差はほとんどなくなった⇒学力への効果は持続しない

• 40歳時点での経済力や社会力の差は存在

⇒社会で生きる力への効果は持続する

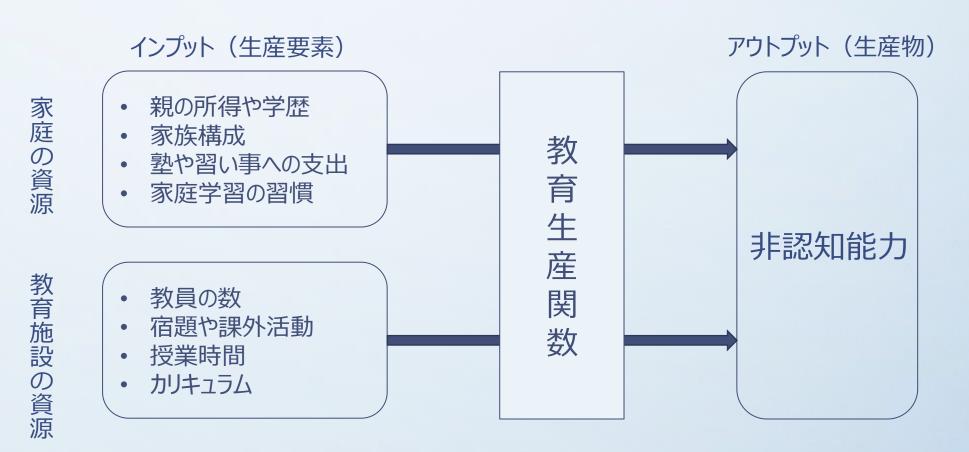
非認知能力は短期的にみると学力に影響し、長期的にみると社会での生きる力に影響する

教育生産関数



出典 中室牧子『「学力」の経済格差』(ディスカバー・トゥウエンティワン、2015) p 33

教育生產関数



出典 中室牧子『「学力」の経済格差』(ディスカバー・トゥウエンティワン、2015) p 33

非認知能力を培う場所は?

- 教育施設 : (幼稚園の場合)休み時間の遊び、友達とのふれあい
 - ⇒ 待機児童、入園条件
 - (小学校の場合)道徳の授業、休み時間の遊び、課外活動
 - ⇒ 国や県でカリキュラムがある
- 家庭 : 通信教育、習い事、家族との時間
 - ⇒ 教育費の負担、共働き親世帯、ひとり親世帯

非認知能力を培うのが難しい場合がある

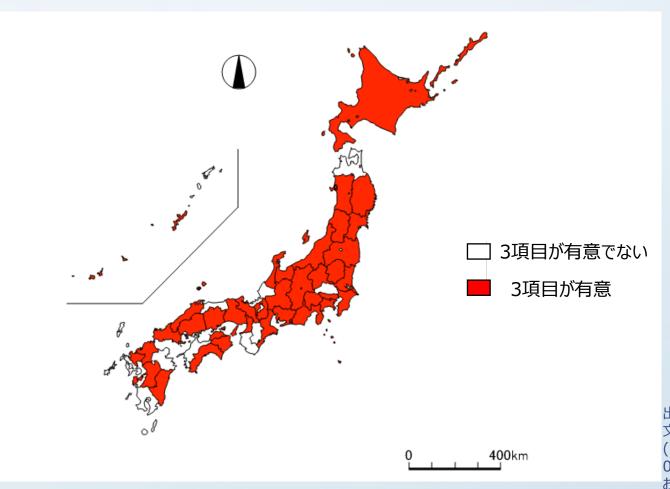
非認知能力を培う場所は?

・ 地域 ⇒ 地域をあげて、みんなで子育て

(例) コミュニティスクール地域子育て支援センター学校地域本部



平成19年~平成30年小学校のコミュニティスクール導入率と小6の思考習慣の単回帰分析結果



- ①自分にはよいところがあると思うか
- ②学校の決まりを守っているか
- ③いじめは何があってもいけないと思うか

以上3項目に「当てはまる」と答えた小6児童の割合を被説明変数とし、コミュニティスクール導入率を説明変数として3つの単回帰分析を行った

<u>導入した46都道府県のうち</u> 3項目とも有意だったのは、 80.4%!!

出曲

文部科学省「コミュニティ・スクールの導入・推進状況(平成30年4月1日)」 (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/community/shitei/detail/14 05722.htm アクセス日2020年7月20日)、 および、

国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」

(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日 2020年8月31日) より作成

コミュニティスクールと非認知能力の因果関係

・ 約8割の都道府県が、思考習慣、すなわち非認知能力の向上に コミュニティスクールの効果が見られる

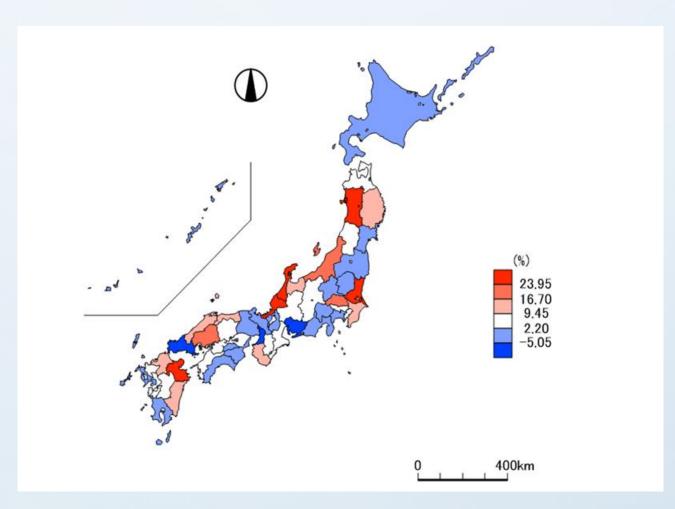
・ ペリー就学前プロジェクトの結果を踏まえると コミュニティスクールの導入によって非認知能力UP ⇒ 学力に影響あり



体力



平成31年度 体力テストの結果



体力テストの評価(A.B.C.D.E)のうち、 A+Bを上位、D+Eを下位とし、 上位一下位の差を表したGIS

→割合が高いほど体力が高い子が多く、低いほど、体力が低い子が多い

出典

国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)より作成

平成31年度 生活習慣(朝食)×体力テスト

男子									女子							
概要									概要							
回帰	統計								回帰	統計						
重相関 R	0.354973								重相関 R	0.359207						
重決定 R2	0.126006								重決定 R2	0.12903						
補正 R2	0.106584								補正 R2	0.109675						
標準誤差	9.837334								標準誤差	11.40249						
観測数	47								観測数	47						
分散分析表	<u>-</u>								分散分析表	₹						
	自由度	変動	分散	された分‡	有意 F					自由度	変動	分散	川された分‡	有意 F		
回帰	1	627.8396	627.8396	6.487746	0.014351				回帰	1	866.7583	866.7583	6.666513	0.013151		
残差	45	4354.791	96.77314						残差	45	5850.753	130.0167				
合計	46	4982.631							合計	46	6717.511					
	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%		係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%
切片	-123.415	51.04929	-2.41756	0.019738	-226.233	-20.5963	-226.233	-20.5963	切片	-121.733	55.82382	-2.18066	0.034477	-234.168	-9.2976	-234.168
X 値 1	1.580078	0.620343	2.547105	0.014351	0.330644	2.829512	0.330644	2.829512	X 值 1	1.751191	0.678241	2.581959	0.013151	0.385143	3.117239	0.385143

説明変数:朝食を毎日食べている

出典

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

(https://www.mext.go.jp/sports/content/20191225-spt_sseisaku02-000003330_11.pdf アクセス日2020年10月9日)

平成31年度 生活習慣(スクリーンタイム)×体力テスト

男子									女子							
概要									概要							
同唱	統計								n li							
重相関 R	0.313352								重相関 R	0.44027						
重決定 R2	0.09819								重決定 R2	0.193838						
補正 R2	0.078149								補正 R2	0.175923						
標準誤差	9.992651								標準誤差	10.97006						
観測数	47								観測数	47						
分散分析表	Ę.								分散分析	 表						
	自由度	変動	分散	リされた分キ	有意 F					自由度	変動	分散	川された分散	有意 F		
回帰	1	489.2429	489.2429	4.899628	0.031975				回帰	1	1302.109	1302.109	10.82004	0.001955		
残差	45	4493.388	99.85307						残差	45	5415.402	120.3423				
合計	46	4982.631							合計	46	6717.511					
	係数	標準誤差	+	P-値	下限 05%	上限 05%	下限 05 0%	上限 95.0%		係数	標準誤差	+	 P-値	下限 95%	上限 05%	下限 05 0%
Lm LL			0.004174						LT LL			7 201005				
切片		5.517257						29.45265	切片	38.81617				28.22446		
X 値 1	-1.09104	0.492902	-2.21351	0.031975	-2.0838	-0.09829	-2.0838	-0.09829	X 值 1	-1.80359	0.548305	-3.28938	0.001955	-2.90793	-0.69924	-2.90793

説明変数:学校以外で一日にテレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を5時間以上見ている

出典

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 (https://www.mext.go.jp/sports/content/20191225spt_sseisaku02-000003330_11.pdf アクセス日2020年10月9日)

回帰分析より

- ・朝食を毎日食べている子ほど、体力テストの成績が高い
- ・スマホやテレビ(ゲーム)を見ている時間が長い子ほど、体力テストの成績が低い
- →生活習慣は体力テストの結果に影響する



平成30年度 家族構成と体力テストの因果関係

概要								
回帰	統計							
重相関 R	0.326293							
重決定 R2	0.106467							
補正 R2	0.086611							
標準誤差	0.168349							
観測数	47							
分散分析表	₹							
	自由度	変動	分散	リされた分キ	有意 F			
回帰	1	0.151964	0.151964	5.361895	0.025197			
残差	45	1.275368	0.028342					
合計	46	1.427332						
	係数	標準誤差	t	P-值	下限 95%	上限 95%	下限 95.0%	上限 95.0%
切片	2.238317	0.038161	58.65395	3.74E-44	2.161456	2.315178	2.161456	2.315178
X 值 1	0.00572	0.00247	2.315577	0.025197	0.000745	0.010695	0.000745	0.010695

説明変数:一世帯あたりの平均構成人数

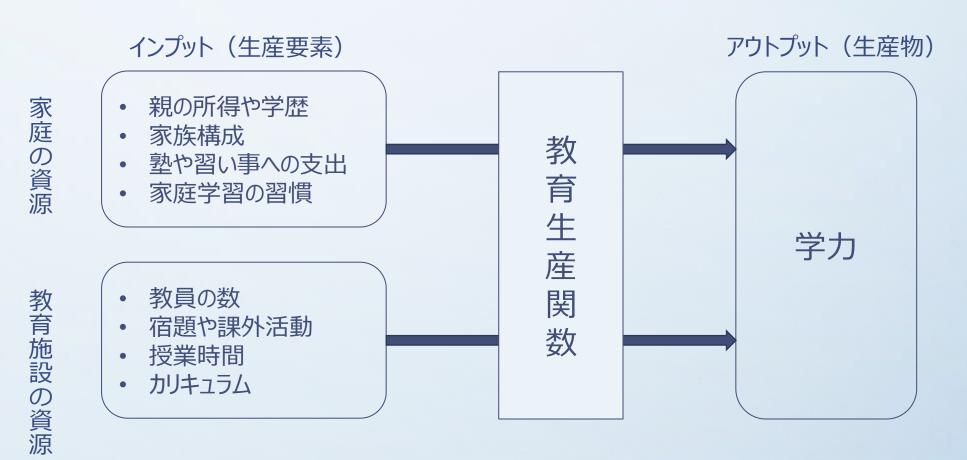
出典

厚生労働省「統計情報・白書 厚生統計要覧(令和元年度)」第1編人口世帯 第3章世帯 第1-65表 世帯当たり平均構成人員(日本人)年次×都道府県 (https://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/indexyk_1_3.html アクセス日2020年7月28年)、および、

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

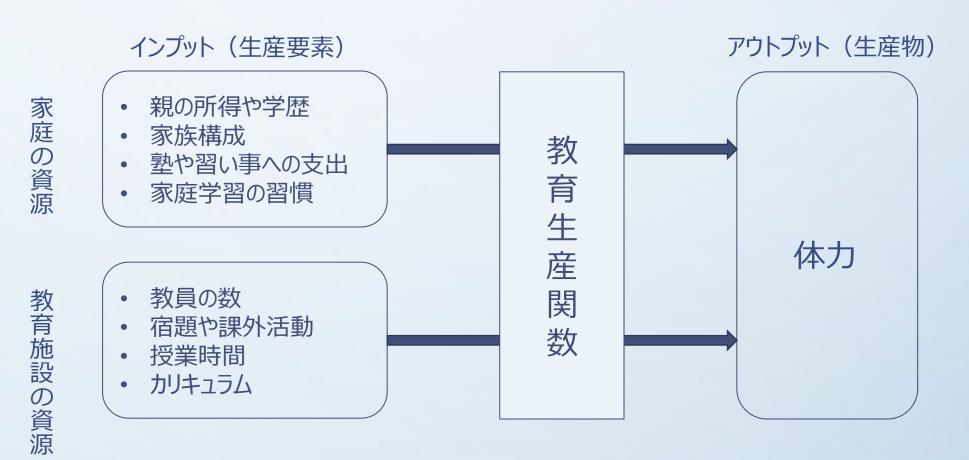
(https://www.mext.go.jp/sports/content/20191225-spt sseisaku02-000003330 11.pdf アクセス日2020年10月9日) より作成

教育生産関数



出典 中室牧子『「学力」の経済格差』(ディスカバー・トゥウエンティワン、2015) p 33

教育生産関数



出典 中室牧子『「学力」の経済格差』(ディスカバー・トゥウエンティワン、2015) p 33

原因、問題点

地域間で、生きる力に格差が起こる原因は「家庭の資源」
〈問題点〉

- 親の収入…変えられない
- 家族構成…子育でをする人数が多いほど、生きる力が育つ
- ・ 生活習慣…生活習慣が整っているほど、生きる力が育つ

☞地域、公共団体との連携でカバー

<u>地域ぐるみで子育てをすることで、子どもの生きる力の向上を図り、</u> 教育の地域間格差を解消したい

三重県で改善することを考える

なぜ三重県なのか?

平成21年度 全国学力学習状況調査 三重県 小学6年生 平均正答率

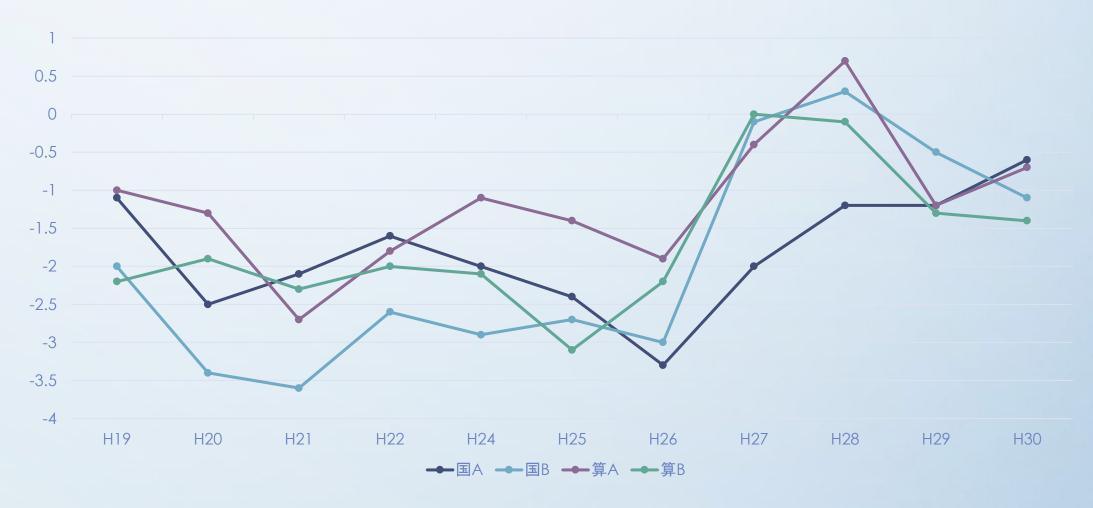
国語 全国45位

算数 全国45位

出典

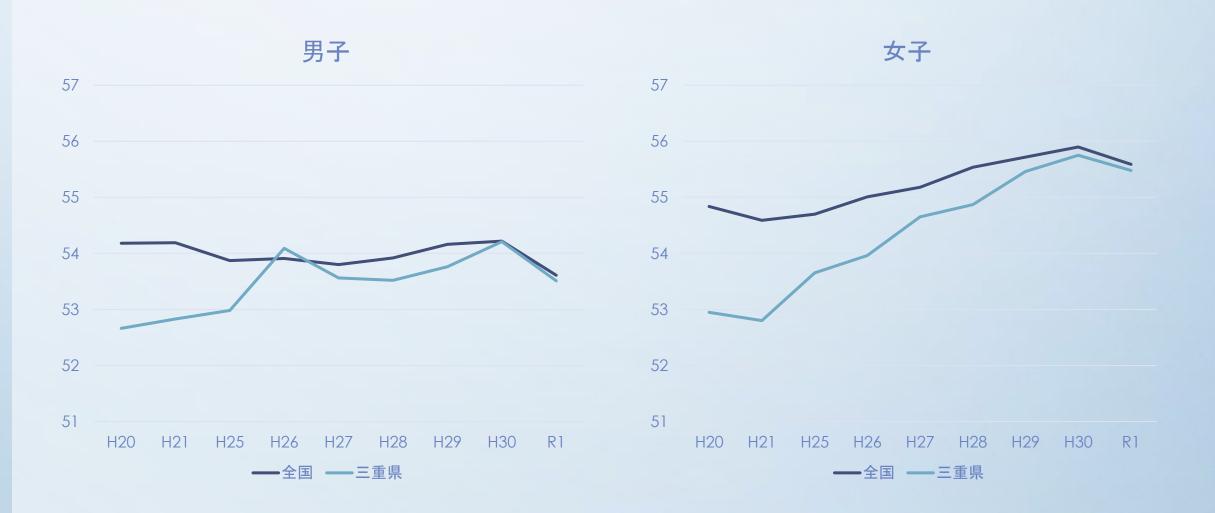
国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」より作成 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)

三重県 全国学力学習状況調査 小6 平均正答率の全国平均との差の推移



三重県全国体力運動能力、運動習慣等調査 小5 体力合計点の推移

スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 (https://www.mext.go.jp/sports/content/20191225-spt_sseisaku02-000003330 11.pdf アクセス日2020年10月9日)



三重県 全国学力·学習状況調査 小6 児童質問紙 回答率の推移

	H29	H30	H31	R2
自分には良いところがある	77.4(-0.5)	83.4(-0.6)	80.1(-1.1)	79.1
ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかったことがある	95.1(+0.3)	-	95.3(+0.1)	92.8
難しいことでも、失敗を恐れないで 挑戦している	78.1(+0.7)	-	78.7(-0.3)	74.6

出典

国立政策研究所「全国学力・学習状況調査」より作成 (https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html アクセス日2020年7月28日)

〈考察1〉

- 学力、体力 … 改善されてきているが、全国平均には達していない
- 豊かな人間性 … 改善があまり見られない

→ 今ある政策に、さらに改善の余地があると考えた

三重県の政策①

コミュニティスクールの積極的な実施

• 学校、保護者、地域の住民が協力して、地域の特色に合わせたイベントを実施することで、みんなで子育てしていく取り組み

三重県の政策②

みえの学力向上県民運動

- サイトを通した、動画学習
- みえスタディ・チェック
- 生活習慣や読書習慣の定着のためのチェックシート提供
- みえの学力向上県民運動推進会議の開催

政策改善案①

「コミュニティスクールプラス」

目的:生活リズムや運動を習慣化させて、子どもの生きる力の向上につなげる

実施期間:長期休暇(夏休み・春休み)平日9:00~18:00

対象:地域のすべての子ども

場所:小学校、地域のコミュニティセンターなど

指導者:教員、学生ボランティア、地域ボランティア、スポーツ委員

生徒の募集方法:学校通信、回覧板、地域のお知らせ

ボランティアの募集方法: SNS、回覧板、地域・大学のお知らせ

1 日のスケジュール

	就学前児童	小学生				
9:00	登	经校				
~12:00	数字、ひらがな、お絵かきなど	自然観察や自由研究のような課題				
~13:00	昼ごはん(弁当)					
~14:00	絵本、お昼寝	読書				
~15:30	体を動かす、外で遊ぶ					
~16:00	おやつ					
~18:00	遊	さび				

効果

内容	身につく力
数字、ひらがな、お絵かき、つみき	学力(認知能力)、豊かな人間性(想像力、意志力)
課題	学力、豊かな人間性(自己制御、意志力)
絵本、読書	豊かな人間性(想像力、表現力)
体を動かす、外で遊ぶ	体力、豊かな人間性(創造性、外向性)
遊び	豊かな人間性(主体性、開放性)

+a

他学年の子どもとの交流を通して、社交性や自己主張といった対人スキルが育つ!

出典:無藤隆,古賀松香『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』(北大路書房、2016)p5

〈考察2〉

地域の取り組みだけでは改善が難しいのでは、、?



家族との会話が全国に比べて少ない

学校やコミュニティスクールでの時間だけでなく、家での過ごし方も生きる力には関わっている

子育でする大人の教育への理解が必要になってくるのではないか

政策改善案②

保護者と指導員に向けた子育てセミナーを提供する

目的:正しい子育て知識を得て、子どもの生きる力の向上につなげる

対象:地域のすべての保護者、放課後事業などの指導員

方法:オンライン(オンデマンドの配信)

講師:非認知能力に詳しい専門家

宣伝方法:学校通信、回覧板、地域のお知らせ



効果

保護者が生きる力についての知識を得る → 子どもとの関わり方の改善

学力だけが大事ではない

→ 家での子どもと話す時間や遊ぶ時間の増加

正しい生活習慣が大事

→ 家での生活習慣の改善

• 指導者も同時に学ぶことで、学校やコミュニティスクールの質の改善にもなる

ヒアリング結果

三重県教育委員会事務局 教育政策課 課長 上村様 (2020.11.18)

政策改善案2つとも実現可能性はある!!

ただし、実現に向けてそれぞれの案で問題点もある

O「コミュニティースクールプラス」について

- 子どもの目線、大人の目線の双方向からみる必要がある
- スケジュールを細かく設定したり、勉強を強制するのではなく、子どもたちが主体的に取り組めるプログラムを長期休暇に取り入れても良いのではないか
 - (例) 親元を離れて住み込みボランティアに参加するプロジェクト

ヒアリング結果

O保護者と指導員に向けた子育てセミナーについて

- 知識を理解していても実践できない家庭や、理解しようとしない家庭もあり、セミナーですべてが解消するわけではない
- セミナーよりも子どもと大人の交流を図る方が効果的ではないか
- →他学年の児童や「ななめの大人」とのかかわり

(例) 学生ボランティアやスポーツ教室の開催など

結び

各都道府県の生きる力(学力、体力、豊かな人間性)をみて、3つともに地域間の格差があると判断し、その原因は家庭の資源にあった

そのために、生きる力が弱い地域の改善策として、コミュニティスクールプラスと子育てセミナーを立案した